ふれあうナカマ　育む　見守る　ちょっぱやでない？

学校は地域と共に歩んでいます。宮城県内の小中学校の様子、自慢できることを、児童・生徒が紹介します。

えっ？　育む　見守る　ふれあうナカマ

わが校 わがまち スクール通信

次回は
松山小（大崎市）
七北田小（仙台市）

青山小　寄り添い心重ね挑戦する

これがイチオシ

「あ」を意識 自ら進んで

青山小学校には、４つの「あ」という、みんなが楽しい学校生活を送るための合言葉があります。

「あいさつ」「あるこう」「あとしまつ」「あくてぃぶ（アクティブ）」の頭文字をとったものです。「あくてぃぶ」は昨年度、加わり、何事にも自分から進んで取り組もうという意味が込められています。例えば、あいさつは、相手よりも先に明るい笑顔で、目を見てすることを心がけています。

４つの「あ」を意識し、全校のみんなで学校生活をより良くしていきます。

学校名　利府町立青山小学校
所在地　利府町青山３の45の１
創　立　1995年
電　話　022(356)9451
校　長　山口　哲哉
児童数　256人

「ゆずりはの心」で行動

青山小学校には、「ゆずりはの心」という教えがあります。「ゆずりはの心」とは、「よりそう心」と「かさねた心」のことです。

「よりそう心」とは、相手の立場で、下級生や友達に接することです。優しさや思いやりの気持ちをもって行動します。

「かさねた心」とは、仲間意識を高めて周囲の人と協力したり、団結したりすることです。仲間と、一人ではできないことにも挑戦します。

秋の恒例行事として青山フェスティバルがあります。３～６年生が遊びや物作りのお店を出して、全校児童が交流を深めます。多くの保護者の方や地域の方にも来てもらい、大変にぎわいます。

この行事では、多くの場面で「ゆずりはの心」が見られます。たくさんのお客さんで忙しい中でも、下級生には優しく遊び方を教えます。そして、みんなで心を重ね、寄り添い、声を掛け合いながらお店を運営します。

これからも、「ゆずりはの心」を大切にしながら、多くのことにチャレンジしていきます。

ミニはにわ作りや魚釣りなど、多くのお店がにぎわった青山フェスティバル

編集委員　三上律、渡辺侑佳、角鹿陽真里、木村晴臣、西村玲心、村上穂花（３月卒業）阿久戸怜、佐々木春音、村上鈴奈、鬼塚りおん、広谷翔平、間橋和奏（６年）指導教員　赤間あや

鹿原小　力合わせ全校児童で演奏

これがイチオシ

地域の方と世代間交流

地域の方々と交流する「世代間交流」という行事が年３回あります。

５月は苗の植え方を教えていただきながら、通学路わきの花だんに花の苗を植えます。７月はスカットボールなどのスポーツをして汗を流します。

11月は伝統文化を体験する内容で、2024年度はしめ縄づくりをしました。自然と会話も弾み、自分のおじいちゃんおばあちゃんみたいでした。

今でも、世代間交流で仲良くなった地域の方々に会うとあいさつしたり、会話を交わしたりしています。

学校名　加美町立鹿原小学校
所在地　加美郡加美町字鹿原水堀３の１
創　立　1950年
電　話　0229(67)2065
校　長　横山　義則
児童数　13人

受け継がれる鹿原太鼓

鹿原小学校は、薬莱山の麓に広がる大自然の中にある学校です。シンボルマークの緑色の三角屋根の校舎が私たちを見守ってくれています。

鹿原太鼓は、約30年前から続く創作太鼓です。大太鼓と複数の締め太鼓で構成されています。大太鼓は６年生が担当します。力強い音が体全体に響きます。大太鼓を支えるのは、下学年が演奏する締め太鼓です。「さんとこどっこい」の掛け声に合わせて演奏します。

昔は、児童数が多かったため、４、５、６年生だけで演奏していましたが、現在は低学年も一緒に演奏しています。２０２４年度は、全校児童15人で力を合わせて演奏しました。

25年度で鹿原小学校は、閉校となります。私たちは、父や母たちの時代から受け継がれている鹿原太鼓を絶やしたくありません。地域のイベントなどで、今後もたたき続けられればいいなと思います。

30年後、私たちの子どもたちがどこかで鹿原太鼓をたたいていたらうれしいです。

鹿原っ子まつりで鹿原太鼓を発表する子どもたち

編集委員　窪田陽愛、早坂斗吾（３月卒業）大枝柊里、小松煌士、髙橋十希栄、中野咲奈、畠山白音、三浦奈々美（６年）指導教員　石川信之

子ども×ニュース　河北新報から

小学生ジャズのシンボルへ

仙台・八木山の「夢色音楽隊」

トランペット、サックス、トロンボーン、キーボード、エレキギター。数々の楽器を手に小学４～６年生が演奏する八木山小のジュニアビッグバンド「夢色音楽隊」

体よりも大きいバリトンサックスやトロンボーンの管楽器を手に、軽快なテンポでジャズを奏でる。仙台市八木山小（太白区）の児童でつくる「夢色音楽隊」は市内唯一の小学生によるビッグバンドだ。

現メンバーは26人。地元のイベントを中心に活動をする。昨年は地元を飛び出して、仙台の初秋の風物詩「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」の大舞台も踏んだ。ジャスのほかロック、ポップス、演歌とレパートリーは広い。

バンドのOBで、プロサックス奏者の熊谷駿さん（33）＝太白区＝が４月から指揮者に就任。「小学生ジャズと言えば八木山と思われるようにしたい」と熱のこもった指導を担う。

サックス担当の大藤ひかるさん（11）は「将来は熊谷さんのような演奏ができたらうれしい」とプロのミュージシャンを夢見る。

（６月２日朝刊より）

本のプロ　推しの一冊

「あした、弁当を作る。」
ひこ・田中　著
講談社

迷いながらも意志を貫く

中学生の日下部龍樹の母は専業主婦。龍樹の世話を「生きがい」と言って、家のことは何でもやってくれます。それに対して感謝する気持ちは確かにあるのに、龍樹は最近、母の愛情を疎ましく思ってしまいます。

母から自立を図るためにと龍樹が考えたのは、昼食の弁当を自分で作ることでした。龍樹の母は、毎朝手作りの豪華な弁当を持たせてくれます。隣の席のマシロは、自分で弁当を用意していました。マシロからレトルトや冷凍食品のことを教えてもらった龍樹は、自分で弁当を用意すると母に宣言します。しかし、母親だけでなく、父親にまで反対されてしまいます。

体や心の成長に伴い、「両親（大人）の言うことは正しいのか」と疑問を持つことは誰もが通る道。迷いながらも自分の意志を貫こうとする龍樹に、共感する読者も多いのではないでしょうか。中学生から。

（仙台市若林図書館　鎌田香織さん）